

## 序

宇野木洋先生は、2020年3月をもってご定年を迎えられます。立命館大学人文学会は、先生のご功績と学恩とに深い謝意を表し、ここにご退職を記念する論集を編み、先生に献呈させていただくこととしました。

宇野木洋先生は、東京都のお生まれで、東京都立大学（現首都大学東京）人文学部中国文学科をご卒業後、同大学大学院人文科学研究科に進学されました。そして1984年4月に29歳で立命館大学法学部に語学担当の助教授として着任され、研究者と教育者としてのキャリアをスタートしておられます。1992年4月に37歳で教授に昇任され、そして2010年4月から文学部に移籍されました。文学部でも語学パートの教員でいらっしゃいましたが、2012年の文学部の改革の際に、新設の東洋研究学域（現東アジア研究学域）・現代東アジア言語・文化専攻の所属となり、現在に至っておられます。現在まで36年の長きにわたり本学の教育・研究に力を尽くし、学部・大学・大学院の発展に寄与してこられました。

宇野木先生の専門分野は、中国現代文学です。中国文学において“現代文学”と呼ばれるものは主として辛亥革命から新中国成立までのものですが、宇野木先生の専門の中心は中国語で“当代文学”と呼ばれる新中国以降、つまり現在進行形の中国の文学についてであります（「中国同時代文学」「中国20世紀文学」とも呼ばれます）。従って研究対象の作家を固定して種々研究するというよりは、柔軟に様々な事象を様々な視点と鋭い筆致で分析を試みてきたと言えます。宇野木先生はこの中国当代文学研究では日本の第一人者であります。最近では中国の若者に絶大な人気を誇る郭敬明や韓寒といった“軽小説”というジャンルにも造詣が深く、その知識と興味の幅の広さには、いつも驚かされます。

個人的な話をさせていただきますと、私は2000年4月に立命館大学に着任しましたが、着任後すぐに研究室に当時学生部副部長であった宇野木先生から電話があり、「書道部の顧問を引き受けてもらえませんか」という依頼を受けました。かねがねお名前を存じ上げていた宇野木先生とのファーストコンタクトがこの電話でした（書道部の顧問は9年間つとめ、2009年度からアメリカンフットボール部の部長をしております）。そして私が国際インスティテュート主事として国際インス執行部にいた2003年度には、宇野木先生は法学部副部長でしたので、いろいろと相談させていただくことができました。私が2005年度から国際部副部長を3年間務めた時には、ちょうど宇野木先生は同じ3年間教学部副部長でいらっしゃいましたので、会議でよく顔を合わせておりました。しかも宇野木先生には当時私が所属していた文学部の中国文学専攻の授業を持っていただいていたし、文学部のテーマリサーチゼミナールでは1つのゼミを宇野木先生と私の二人で担当したこともありました。ですので、私にとって宇野木先生は他学部の先生という意識はほとんど無かったと思います。

そんな私でも、その宇野木先生がまさか2010年度に法学部から文学部に移籍され、その2年後にまさか同じ新設専攻に所属することになるとは、さすがに思ってもみませんでした。それから現在に至るまで、我々は現代東アジア言語・文化専攻の教員として、ともに学部生、大学院生の指導に当たっております。

## 序

最近の学生や最近着任された先生方はご存じないかも知れませんが、宇野木先生はかつて有名なヘビースモーカーでした。一本吸い終わったらすぐ次のタバコを取り出すという、いわゆる「チェーンスモーカー」だったと思います。卒論試問などで宇野木先生の個人研究室にうかがうと、何となく壁の色が…という感じでした。その宇野木先生がまさか禁煙されるとは全く思っていませんでした。これが私の宇野木先生に関する「まさか」の2つめです。あの宇野木先生でもやめられたんだから、というのが立命館の禁煙促進運動の励みになっております。

ここで、宇野木先生の大学行政での活躍についても記しておきたいと思いますが、あまりに数が多いので、主なものとし、かつ私との関係のところで書いた内容と重複するものは省くことにします。まずは外国語教育センター（現言語教育センター）の設立のために尽力され、後にセンター長をはじめとする要職につかれたこと、そして立命館孔子学院についても設立時から数回副学院長を務められ、現在は学院長についておられます。法学部で副学部長をつとめられたことは前述しましたが、文学部移籍後には2012年度から2年間文学部の副学部長をつとめておられます。さらに2015年には教職員組合の委員長、2016年から3年間立命館生活協同組合の理事長をつとめられました。こうして見ますと、立命館在職36年間のうち、役職が途切れたことはほとんどなかったのではないかと思います。これまでのご活躍に敬意を表したいと存じます。本当にお疲れ様でした。

宇野木先生はその教育・研究を通して優秀な学生を多数お育てになりましたが、その中には現在研究者や教育者として活躍している方がたくさんおられます。2020年4月からは特任教授として、しばらくは引き続き宇野木先生に教鞭をとって頂けることを、大変ありがたく存じております。今後とも、文学部・東アジア研究学域・現代東アジア言語・文化専攻そして中国語担当教員へのご助言を賜ることができますれば、幸甚に存じます。

2020年2月

学校法人立命館副総長

立命館大学副学長

文学部教授 上 野 隆 三